アカイカ

- H 1 6 V o 1 . 5 (拡大版) 標識放流途中経過 -

平成16年11月1日

鳥取県栽培漁業センター

アカイカ標識放流調査の途中経過、発信器調査の結果をお知らせします。

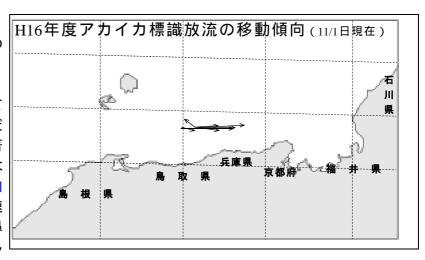
標識放流調查

放流状況・再捕状況

今年度の標識放流調査は悪天候が続いたことや、思ったようにアカイカが獲れなかった こともあり、大変悪戦苦闘しました。現在当センターが把握している標識放流個体数は 115 個体で、11 月 1 日現在で 7 個体の再捕報告がありました (再捕率:6%)。再捕率が昨年 に比べ低いことについては色々な要因が考えられますが、悪天候のために 10 月の出漁機 会が少ないことが最も大きな要因と考えられます。

移動傾向

再捕された 7 個体の 内訳は兵庫県 5 個体、 鳥取県 2 個体でした。 現在、報告が上がって いるのは、この2県だ けです。昨年ほど顕著 ではないものの、やは り東方へ移動する傾向 があるようです(最速 の個体は一日で長尾鼻 沖から香住沖に移動し ていました (61km /日))。



概要

共同で研究を進めている兵庫県 但馬水産技術センターの調査船「た じま」により、アカイカに発信器 を取り付け、追跡調査が実施され ました。1個体のみの結果ですが、

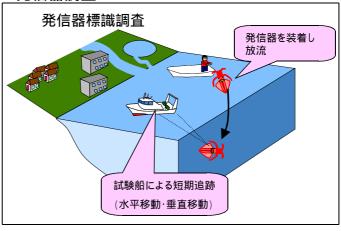
移動方向・速度、遊泳水深等、興 味深い結果が得られました。

·調査日時: 2004/10/7-10/8

・調査海域: 香住沖

・追跡したソデイカ:胴長74cm

発信器調査



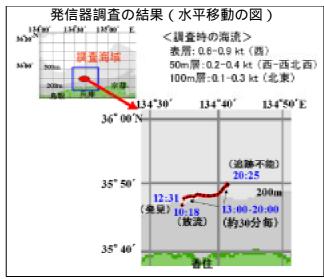
水平移動

10:18 に発信器を取り付け、放流 しました。その後一時的に見失いま したが、12:31 に発見し、合計 10 時 間以上の追跡に成功しました。

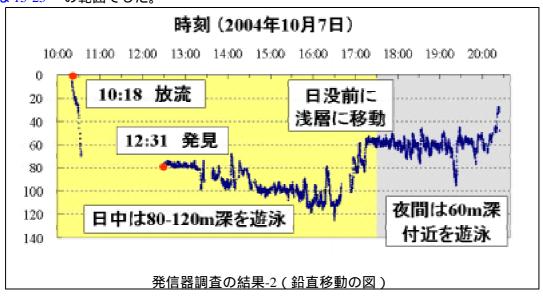
このイカは東-東北東方向に移動し、平均的な移動速度は約 1.5km/時 (人がゆっくり歩く程度の速度)でした。遊泳方向は必ずしも海流と一致していませんでした。

鉛直移動

日中は概ね 80-120 m層を遊泳して いましたが、日没 30 分前から夜間



にかけては水深 60m 層付近を遊泳しました。また、その間も一定水深にとどまるのではなく、絶えず 20-30m 程度の鉛直移動を繰り返していました。なお、遊泳していた層の水温は 15-23 の範囲でした。



お願い

栽培漁業センターでは、水温や水深を記録出来る標識(記録型標識)も装着し、放流し

ています。1 個体でも再捕されれば、数週間分の遊泳水深や水温のデータを取り出すことが出来、貴重な結果が得られます。もし、再捕された方は、当センターに連絡いただくようご協力お願いします。

